

共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2116号 2024年10月06日

日本共産党 根室市議団

根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023

視察の結果を報告し、各自の考えを語る各議員と参加者



根室の「ひとづくり」を一緒に考える 会派軸と行政視察の報告会を開催しました

私たちは市議会議員は全国各地の先進的な取り組みについて学び根室市の施策に生かすための行政視察を行うことがあります。そこで得た知見を議会論議に活かしてきましたが、これまでは市民の皆さんに報告したり、「ご意見を聞く機会を設けること」は特にありませんでした。

今回の益田市での行政視察のテーマは今後の人口減少のなかで地域で活躍する「ひとづくり」をどう進めるのかという課題です。報告会で私たちが学んできたことを、それぞれの議員さんの方の観点からお話し、広く市民のみなさんと一緒に考え、そして行動していくためのきっかけとしていきたいと私たちは考えました。

報告会には市教育委員会の事務局や社会教育委員、また領土返還運動の後継者、漁業従事者、町内会、教育関係者をはじめ様々な市民活動に関わる方々約25名に参加いただき意見や感想を交わしました。

9月6日、根室市議会「会派軸」と日本共産党根室市議団が、今年7月に島根県益田市ライフキャリア教育等に関する行政視察の結果について市民向けの報告会を開催しました。



9月29日に文化会館で開催した「じい〜ん こども食堂」の様子

こうした住民主体の活動が今後も様々な形で広がることが求められていると思います。

はじめに「これから自分たちはどう生きたいのか」を地域の大人と子どもが真剣に対話する『益田版カタリ場』など地域一丸となった「ひとづくり」の取り組みを紹介。その後、視察に参加した各議員からそれぞれの視点で根室市の課題や今後に向けての提案など語りました。

久保田陽議員は東大の牧野教授の著書をベースに日本社会の動向を解説し「行政が全てを担うことは不可能な時代になり、住民自身が新たな地域コミュニティを作っていく必要がある」という趣旨の話をしました。

鈴木一彦議員は益田市が学校と地域を繋ぐ社会教育コーディネーターを各学校に配置している事業を紹介し「教員の働き方改革も含めメリットが多い。今後こうした役割を担う人材が根室にも求められる」と話しました。

須崎和貴議員は「まちづくりは行政や議員だけでなく市民全員がそれぞれの役割を担うもの」として、学校教育と社会教育を両輪に住民主体で対話や議論を重ねる主体性を育んでいくことが重要と話しました。

参加者から特別支援学級に在籍した子ども達がお祭りに毎年参加している姿を見て「根室には大きな財産がある」と自身の経験が語られました。またこうした機会(報告会)を今後も行って欲しいとの意見も出されました。

9月定例会 波岸教育長が再任 新たな教育委員に山本連英氏が任命される

9月30日、根室市議会9月定例会議会は令和5年度の各会計の決算について採決を行い、全て認定されました。決算審査特別委員会の主な内容報告は別な機会にしますが、人口減少が著しいなか、今回は特に医療や介護、また市の職員など働く人の確保対策が大きな議論となっていました。

日本共産党根室市議団としても引き続き、市立根室病院の経営問題をはじめ市政の様々な課題に対し、行政側と論議しながら前進できるよう取り組んでいきたいと思っています。

教育長は10月31日で任期満了となる波岸克泰氏が再任されました。そのほか4人いる根室市教育委員会委員のうち10月20日で任期満了の石垣浩一氏が退任され、その後任に山本連英氏が任命されました。

また9月定例会議会で審議された意見書案の結果は下記の通りです。

提出者	意見書の表題	賛否	備考
議長	国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書(案)	◎ 全会一致	
日本共産党	現行の健康保険証の廃止を撤回し、存続を求める意見書(案)	× 反対多数	議会運営委員会 で取り下げ
日本共産党	新型コロナウイルス感染症に対する経済的な負担軽減を求める意見書(案)	○ 賛成多数	
日本共産党	訪問介護報酬引き上げの再改定を早急に求める意見書(案)	○ 賛成多数	

春国岱でウラギク保護活動と オニハマダイコンの駆除作業

根室ワイズユースの会

9月23日、根室ワイズユースの会は「春国岱環境保全活動」を開催し、会員や一般参加の方々から環境省や自然保護NPO団体、根室ネイチャーセンター職員の解説と指導の下、ウラギクの保護活動のその後の様子を観察し、外来種オニハマダイコンの駆除作業も行いました。

今年7月に根室ワイズユースの会も参加してウラギクの周辺にシカ柵を設置する保護活動を行ったところ、今は高さ70cm程の柵の天井までウラギクが成長している様子が観察されました。また柵で保護した部分以外でも木道周辺など各所に咲いている様子が見えました。環境省の職員によると春国岱を行き来するエゾシカを試験的に駆除した効果があつたのではないかと説明していました。



オニハマダイコンの駆除作業を行う参加者。小一時間の活動で、事務局(市農林課)によると漂流ゴミとあわせて約460kg採取したそうですが、とても追いつかないほど繁茂していました。